

鐵首者團宣言

鐵首は最初からの豫期通りに切られた。覺期の上の最後だから
 更別段驚かない。一度首切りになつた者は、も一度首になる氣遣ひは
 ないので、だから今後は鐵首者團に於て徹底的に彈劾運動を繼續する
 ければ鐵首は飽く迄も勞働組合を愛護しなければならぬ。

最小の犠牲を以て最大の効果を收めんとするのが鐵首の最初からの願
 望なのだ。當局は暴動、俵て居る、會員諸君は此際鐵首に對する裁判
 合ひから直接行動に出て敵の尻に墮るが如き事のならん事を切望
 す。

大正十一年四月十日

鐵首者團

八木信一
 吉田寛治
 丹羽市太郎
 菅忠吉
 阪本龜藏
 上木喜藏
 瀨村八十二郎
 富田實太郎

廣永賢次
 川村國松
 内藤新次
 吉田伊三郎
 井村眞治
 秋山昌道
 木下盛之助
 中村靜雄

11.6.14
 大阪毎日